

学校 Web サイトの日常的な更新を可能にする工夫

富山市立寒江小学校 笹原克彦

<http://sasatto.net/teacher.htm>

1 はじめに

学校の情報化が進展するにつれて、今後 Web による情報公開は、ますます進むことが予想される。学校 Web の開設はすでに常識化しており、今後は、日常的な更新が求められるようになっていくだろう。しかし、さまざまな理由から、多くの学校では Web の更新に苦労しているのが現状である。

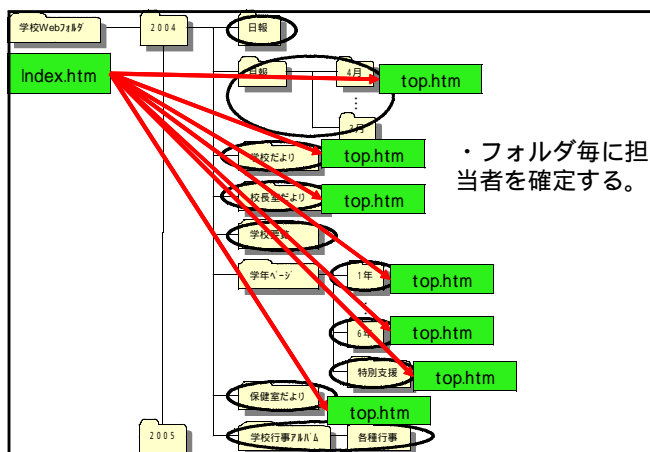
そんな中、寒江小学校では、過去3年間にわたって、全教職員の参加による週2, 3回程度の更新を維持してきた。

2 寒江小学校ではどのように Web を更新してきたか

(1) 全校体制による更新を可能にする3つの工夫

1 Web サイト構造の工夫

- ・年度毎のフォルダの設置
- ・下位階層では、Web サイトのコンテンツ1つにつき1フォルダを開設
- ・内容ごとに更新の担当者を明示
- ・学校 Web の TOP ページから、フォルダ内の TOP ページへのリンク



2 頻繁に更新できるコンテンツの工夫

- ・1枚の画像と短い文を使って短時間で更新できる日報的なコーナーの開設

3 教員の協力体制の工夫

- ・管理職を中心とする Web の定期的更新の義務化
- ・画像と短文のみの単純な Web 作成のための研修の実施



上記の3つの工夫を行う以前には、Web 作成ソフトの研修を行っていたものの、更新はほとんど進まなかった。しかし、工夫の実施後は学校全体として週2, 3回程度の更新が行われるようになった。以前より簡単に更新できるというイメージをもち、全教員が更新に取り組むようになった。しかし、更新頻度が上がるようにつれ、次のような点が、問題となった。

トップページの更新は結局担当者が行う	- TOP の更新情報の変更
	リンクの張り直しは手作業で面倒
ページのデザインに時間がかかる	- フォルダごとの TOP を作り直すのに時間がかかる
	簡単に作れるテンプレートがあるとよい
同じ内容をいくつも書く	- 日報のページと月報のページに同じ内容
依然として紙ベースで起案	- 教務・教頭・校長の承認が必要。

(2) CMS 導入による更新頻度の向上と教員の意識の変化
平成17年度9月より CMS による Web 更新に移行した。
CMS により、これまでの問題点が以下のように改善された。



・トップページの更新

- リンクは自動的に設定されるので、作業時間が効率化した。
- 更新情報は自動表示されるので、作業は不要になった。

・ページデザイン

- あらかじめフォルダ設定をしておくことで、中間ページは自動的に生成されるようになった。
- 更新作業で行うのは、文章の作成と画像処理・添付だけになった。

・承認システムの簡略化

- 更新の依頼は、Web 作成後、ボタンをクリックするだけ。校長が内容を確認して承認。

CMS の導入後は、更新されるページ数が、導入前の 2.5 倍と、飛躍的に増大した。また、Web 更新に携わる教職員もさらに増え、毎日更新される「今日の給食」は人気コンテンツとなった。
CMS 導入後、教職員からは以下のような感想が寄せられている。

(表1) CMS 導入前後の更新頻度の比較

	導入前	導入後
合計ページ数	83	211
1日当たり平均ページ数	0.7	1.7

導入前:2004年11月～2005年3月

導入後:2005年11月～2006年3月

デザインに凝らず内容だけ考えればよいので、気楽に更新できるようになった。

デザインを考えるのに時間がかかっていたが、体裁にとらわれなくなり、迷いなくできる。

リンクの張り直しや、画像の置き場所などを気にしなくてもよくなったので、更新が簡単になった。



3 終わりに

本校では、平成18年度に入り、教職員の半分が入れ替わった。しかし、4月末の段階で、すでに毎日更新の体制が確立している。従来の Web 作成ソフトによる更新では、人的、組織的な工夫によって Web を維持するにも限界がある。学校のように、複数の担当者での Web サイト更新を維持するには、CMS のように、更新を支援するシステムが不可欠であると考えている。